

相模原商工会議所 景気観測調査結果

平成31年度 第4四半期 (平成31年1月～3月)

業況DIは、全産業で悪化するも業種によってはばらつきが見られ、景気の先行き不透明感があらわに。製造業は次期も大幅な悪化の見通し。

ポイント

➤ 平成31年1月～3月期の総合業況DIは▲15と、前期▲6から9ポイントの悪化。製造業（前期28・今期6）、飲食業・サービス業（前期▲12・今期▲25）の業況変化が大きく影響した。建設業（前期▲9・今期▲5）は小幅ではあるものの改善。小売業・卸売業（前期▲23・今期▲24）はほぼ横ばいとなった。

コメントでは好調という声も一部あるものの、人手不足を訴える声や受注減少や消費の落ち込みを訴える声も業種にかかわらず依然として多い。前期DIでは唯一製造業が景気の良さを表していたが、今期は失速し、全体的に景気の悪化を示している。

➤ 次期見通しについては、総合業況DIは▲19と、今期▲15から▲4ポイントの悪化。建設業（今期▲5・次期0）、飲食業・サービス業（今期▲25・次期▲18）は改善の見通しを立てているが、製造業（今期6・次期▲22）は悲観的な見通し。小売業・卸売業（今期▲24・次期▲26）は次期もほぼ横ばいを示しているものの、どの業種もDIがプラスとはならず、景気の先行き不透明感を表している。

各業界から寄せられたコメント

【水晶デバイス・MEMSソケット製造・販売業】

開発のスピードが早く、製品が使われなくなるスピードが早くなってきた。

【プラント解体、アスベスト除去、ダイオキシン対策工事】

東京オリンピック関連の工事のため、人件費の上昇と作業員の不足。

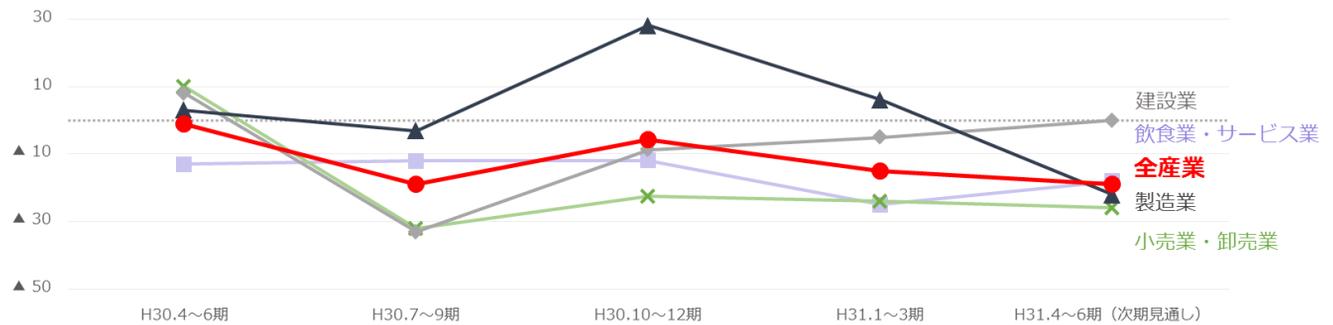
【健康食品販売業】

売上好調であるが、配送費及び仕入れ原料の上昇により、今後大幅な粗利益の低下を予想している。

【ビルメンテナンス業】

最低賃金が上がっても委託費が変わらないので、営業利益が減少している。

業種別業況（総合判断）DI値の推移



	前々期業況 (H30.7-9)	前期業況 (H30.10-12)	今期業況 (H31.1-3)	次期見通し (H31.4-6)
製造業	▲3	28	6	▲22
建設業	▲33	▲9	▲5	0
小卸売業	▲32	▲23	▲24	▲26
飲食サービス業	▲12	▲12	▲25	▲18
全産業(総合)	▲19	▲6	▲15	▲19

業況天気図凡例



調査期間：平成31年1月1日～平成31年3月29日

回答率：30.0%

回答社数：150社

調査対象：当所会員中小企業500社(業種別に無作為抽出)

◀景気観測調査▶

前年度同時期との業況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。

「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。